

2016年度入試概要分析

この夏、各大学の2016年度入試の概要が出揃った。2016年度入試は、2015年度の数学と理科に続き、英語、国語、地歴・公民が新課程に移行し、全面的に新課程に対応した入試となる。ここでは、2016年度入試の動向を占う上で、注目される入試変更や大学の動きについてお伝えする。

◆大学志願者数は微減の予測

はじめに、大学志願者数の推移を確認しておこう。**【図表1】**は、2000年以降の新規高卒者数および大学志願者数・入学者数の推移である。2015年度は、現卒をあわせた大学志願者数は、66万6千人（前年比100.7%）と前年から大きな変化は見られなかったものの、現卒別に見ると増減が異なったことがトピックであった。新規高卒者数が増加したのに伴い、現役の大学志願者数は前年から1万5千人（2.7%）増加して59万3千人となった。一方、既卒の大学志願者数は7万4千人で前年から1万人（12.7%）減少した。

来春の新規高卒者数は2015年度の増加から一転して8千人（0.8%）減少する見込みである。これに伴って現役の大学志願者数は減少が見込まれる。また、既卒の大学志願者数も同様に減少していると推測され、現卒あわせた大学志願者数は、今春から1～2%程度減少して65～66万人になると河合塾では予測する。

◆新課程への全面移行

2015年度入試は数学と理科が新課程に対応した初年度の入試となった。しかし、2015年度入試では、旧課程生へ配慮した出題を行う必要があったことから、多くの大学の個別試験では新旧課程の共通分野からの出題が目立った。2016年度入試ではこうした配慮が不要となることから、新課程固有分野からの出題の本格化が予想される。

2016年度は英語、国語、地歴・公民が新課程に移行する。数学と理科のように取り扱う分野・項目が大きく変更されることはないものの、すでに2015年度のセンター試験においても、例えば英語で総語彙数の増加や日常の場面に即した出題が増えるなど、新課程の特徴を先取りするような出題が見られた。また、新課程の地歴の各科目では、教科書の記載内容の充実や資料の活用・考察の重視といった変化がある。こうした変化を踏まえてセンター試験のみならず、各大学の個別試験においても出題傾向の変化が十分予想される。

なお、英語と国語については、新課程への移行に伴い科目名の変更が行な

われているが、私立大の入試資料（入試ガイド、学生募集要項など）においては旧課程科目による記述が散見された。大学へ問い合わせた際に、課程の移行そのものを理解していない入試担当者が少なくなかったことは残念な限りである。

◆高大接続改革を意識した動き

現在、議論されている高大接続改革の動きについては、本誌シリーズ「高大接続改革を迫る」をはじめとして詳細をお伝えしてきた。8月末の高大接続改革システム会議では中間まとめ案について議論が行われ、新テストの具体が臚げに見えつつある。

この議論のなかで、各大学の個別選抜については新テストのスタートを待たずに、入学者選抜の改革を進めていくことが提言されている。入学者選抜における評価の観点として、「知識・技能」に偏らず「学力3要素」をバランスよく評価すること、そのためにも多面的な選抜を行うことが求められている。2016年度入試では、こうした動きを先取りする形で東京大、京都大がそれぞれ推薦入試、特色入試を導入する。

また議論では「英語外部試験の活用」「アドミッション・ポリシーの明確化」についても検討されている。「英語外部試験の活用」に関しては、4技能を重視する観点から新テストでの利用に加え、各大学の個別試験においてもその活用を促している。2015年度入試では、TEAPの登場や一般入試で

【図表1】大学志願者数・入学者数の推移

入試年度	高卒者数	大学志願者数			大学 入学者数
		全体	現役 (志願率)	既卒	
2000	1,328,940	745,199	599,950 (45.1%)	145,249	587,142
'01	1,327,109	750,324	615,475 (46.4%)	134,849	588,871
'02	1,315,079	756,333	622,346 (47.3%)	133,987	590,845
'03	1,281,656	742,934	606,116 (47.3%)	136,818	586,749
'04	1,235,482	722,219	585,763 (47.4%)	136,456	580,456
'05	1,203,251	699,732	578,295 (48.1%)	121,437	586,296
'06	1,172,087	690,615	586,314 (50.0%)	104,301	587,512
'07	1,148,108	689,673	595,040 (51.8%)	94,633	597,219
'08	1,089,188	670,371	582,723 (53.5%)	87,648	589,552
'09	1,065,412	668,590	584,908 (54.9%)	83,682	589,942
'10	1,071,422	680,644	596,570 (55.7%)	84,074	598,827
'11	1,064,074	674,696	589,203 (55.4%)	85,493	593,845
'12	1,056,387	664,334	581,372 (55.0%)	82,962	588,662
'13	1,091,614	679,177	599,642 (54.9%)	79,535	599,240
'14	1,051,343	661,555	577,353 (54.9%)	84,202	593,596
'15	1,068,960	666,329	592,801 (55.5%)	73,528	602,559

※文部科学省学校基本調査より
 ※志願率：高卒者数に占める現役大学志願者の割合
 ※大学入学者数は高校卒以外（外国の学校卒等）を除いた値を掲載

の英語外部試験を活用など、これまでにない動きが見られた。詳細は後述するが、2016年度入試はさらなる拡大の様相を見せている。

「アドミッション・ポリシーの明確化」では、各大学が実施する選抜方法において、評価する「学力3要素」を明確にすることを求めている。すでに、一部の国立大の2016年度入学者選抜要項で、従来から記載方法が変更されており変化が

見られる。

以上、2016年度入試の概要を触れるうえで、入試を取り巻く主な環境の変化について取り上げた。続いて、国公立大、私立大の順に個別の大学の変更点など具体的な変更内容を見ていこう。

国公立大学編

◆募集人員の変化

国立大入学定員は329名減

【図表2】は、国公立大の募集人員の変化を選抜方法別に見たものである。国立大の入学定員は前年から329名減少している。これは、弘前大、岩手大、信州大、和歌山大、愛媛大、福岡教育大、佐賀大、大分大などが改組に伴う入学定員の減員を予定しているためだ。なかでも弘前大(60名減)、岩手大(45名減)で減員数が多くなっている。また、電気通信大は、夜間主コースを縮小して70名減となる。

一方、公立大は79名増となっている。名寄市立大が短大部の学科を4年制化して学科を新設(社会保育学科:定員50名)する影響が大きい。

選抜方法別に見ると、国立大で募集人員が一般入試から推薦・AO入試へシフトしていることから、前期日程が222名減、後期日程が257名減となっている。後期日程は難関大や医学科を中心に廃止の動きが続いている。来春も東京大が推薦入試導入に伴い後期日程を廃止するのをはじめ、埼玉大(教育)、信州大(医-医)、熊本大(医-医)などが後期日程を廃止する。医学科は2大学が廃止することから、後期日程実施大は50大学中24大学となる。

◆東京大の推薦入試と京都大の特色入試

東京大が推薦入試、京都大が特色入試を導入する。これまで一般的な受験生の入試は一般入試のみであった両大学が、奇しくも同年度に特別選抜の導入に踏み切る。また、本人の適性や高校時代の活動内容を重視する点、そのため多様な観

点で時間をかけた選抜を行うなど共通点も多い。

東京大の推薦入試の募集は、一般入試の科類別とは異なり学部別に行う。推薦入試での入学者は、前期課程(1・2年次)は科類別入学者と同様に教養学部にも所属するが、前期課程修了後は出願時に志望した学部に進学する。また、志望分野への関心・意欲に応えるため、早期に専門教育に触れる機会の提供や、担当教員の配置などの措置が講じられる。募集人数は大学全体で100名(全体の約3%)。選抜方法は学部により異なるが、大きな流れは、出願時に提出する書類・資料による1次選考を経て、2次選考は面接、プレゼンテーション、小論文などを課す。さらに基礎学力の把握としてセンター試験を利用し、7科目8割(医学科のみ900点満点中780点)以上の得点を求めている。また、各高校から推薦できる人数は最大2名(男子1名、女子1名)としている。

京都大の特色入試は、学部により「学力型AO」「推薦」「後期日程」と試験実施方式が分かれている。医学部医学科と工学部が「推薦」、法学部が「後期日程」、その他が「学力型AO」で実施する。なお、理系学部の一部学科(専攻)では初年度は導入が見送られた。募集人員は大学全体で108+若干名(全体の約4%)。選抜方法やスケジュールも学部により大きく異なるが、選抜で「高等学校での学修における行動と成果」「個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力」を評価する点は共通している。前者は、高等学校長の作成する高校在学中の活動歴を記した「学業活動報告書」や「推薦書」、志願者自身が作成する「学びの設計書」をもとに評価する。後者は、学部で必要とされる基礎学力や望ましい能力について、書類審査、センター試験の成績、学部ごとに実施する試験(能力測定考査、論文、面接など)を組み合わせて評価する。医学科以外で利用されるセンター試験の成績は、基準点として利用する学部もあれば、可否判定で利用する学部もあるなど利用方法が分かれるが、基準点で利用する学部では概ね8割以上を求めている。

両大学の入試は、高大接続を意識した丁寧な選抜を行う点は評価できる。ただし、東京大が

【図表2】国公立大 選抜方法別募集人員の変化

		国立大			公立大			国公立大計		
		2015年度	2016年度	前年差	2015年度	2016年度	前年差	2015年度	2016年度	前年差
一般選抜	前期日程	65,107	64,817	-290	14,987	15,055	+68	80,094	79,872	-222
	後期日程	15,782	15,542	-240	3,714	3,697	-17	19,496	19,239	-257
	中期日程	-	-	-	1,958	1,958	+0	1,958	1,958	+0
	別日程	-	-	-	300	300	+0	300	300	+0
	AO入試	2,807	2,961	+154	487	479	-8	3,294	3,440	+146
	推薦入試	11,878	11,948	+70	7,209	7,253	+44	19,087	19,201	+114
	その他	616	593	-23	333	325	-8	949	918	-31
	計	96,190	95,861	-329	28,988	29,067	+79	125,178	124,928	-250

※河合塾調べ

出願の提出書類として「留学を含めた国際的活動で高評価を受けた証明」「科学オリンピック等の成績」などを例示していることから分かるように、一般の受験生にそのハードルは高く、志願者はかなり限定された層となるだろう。また、受験生だけでなく高校教員においても書類作成等で負担感の強い入試となっている点は否めない。高大接続改革について議論が進むなかで、両大学の入試の注目度は高い。今後他大学を含めてどのような広がりを見せていくのか注目される。

◆英語外部試験の活用

英語外部試験活用の動きは国公立大においても拡大している。2016年度では千葉大(法政経)、東京海洋大(海洋科学)、横浜市立大(医-医)、神戸大(国際文化)、広島大、福岡女子大(国際文理-国際教養)などが英語外部試験を活用する入試を新たに実施する【図表3】。

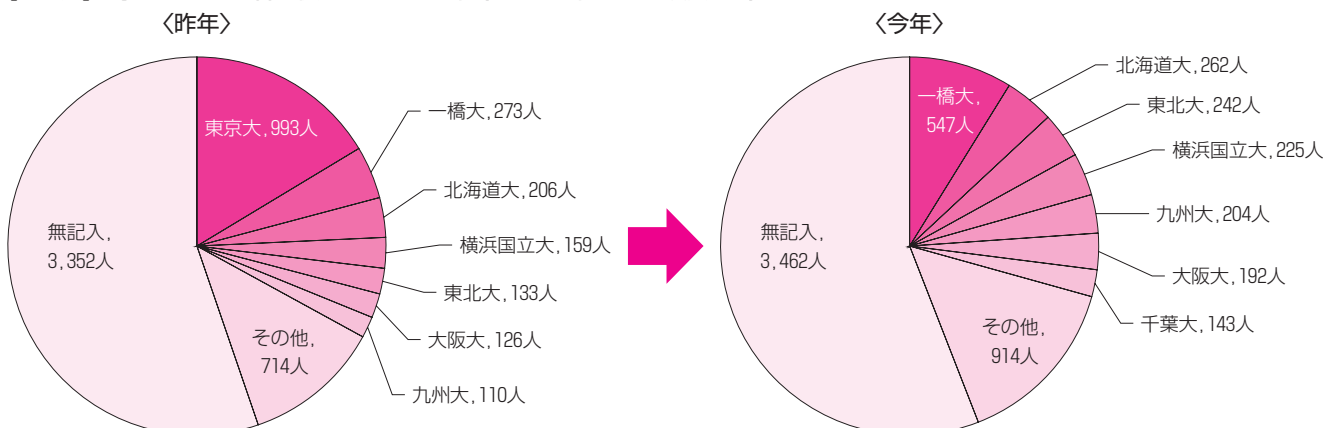
東京海洋大(海洋科学)は、一般入試を含めた全ての選抜区分の出願要件で、英語外部試験での一定スコアを必須とする。ただし、2016・17年度の一般入試に限り、英語外部試験未受験者を考慮して、センター試験の英語で250点中175点以上(海洋政策文化学科は志願者数の指定倍率以内)であれば選抜対象とする。これまでも推薦・AO入試の募集枠でこうした出願要件の指定は見られたが、一般入試の全募集人員を対象とした指定を行う大学は初めてである。海洋科学部では2014年度入学者より4年次への進級時にTOEIC600点を進級要件とするなど、グローバル人材育成を意識した学部教育の改革に取り組んでおり、今回の変更はそれに連動して実施するものである。

【図表3】2016年度英語外部試験の新規利用例

大学	学部(学科)	入試方式	利用方法	対象英語外部試験
千葉	法政経	経済学特進プログラム	出願資格	TOEFL、IELTS、英検、GTEC
首都大東京	都市教養(理工-生命科学)	推薦入試(英語枠)	出願資格、1次選考の一部	TOEFL、IELTS
東京海洋	海洋科学	全試験区分	出願資格	TOEFL、TOEIC、IELTS、英検、GTEC
横浜市立	医(医)	推薦入試(地域医療枠)	出願資格	TOEFL、TOEIC、IELTS、英検、GTEC
京都	医(医)、薬(薬科学)	特色入試	出願資格、1次選考の一部	TOEFL
神戸	国際文化	推薦入試	出願資格、選考の一部	TOEFL
広島	医(保健)	AO入試(大学院進学型)	出願資格	TOEFL、TOEIC、IELTS、英検
	工、生物生産、薬	AO入試	合否判定に加点して利用	TOEFL、TOEIC、IELTS、英検 ※学部により対象試験異なる
	文、法、経済、歯、総合科学	AO入試	選考の評価に反映させるなどして利用	TOEFL、TOEIC、IELTS、英検
福岡女子	国際文理(国際教養)	AO入試	出願資格	TOEFL、TOEIC、英検、GTEC

※河合塾調べ

【図表4】東京大前期志望者の後期志望校の変化(第2回全統マーク模試より)



千葉大(法政経)は、新たに実施する「経済学特進プログラム選抜」において、英語外部試験のスコアを出願要件とする。合格者は経済学コースに配属され、グローバル経済をリードする人材養成をめざすプログラムを履修する。

横浜市立大と神戸大は推薦入試、広島大と福岡女子大はAO入試での導入となる。神戸大(国際文化)は新規に実施する推薦入試で指定する英語外部試験をTOEFL iBTに限定している点に注意したい。広島大では複数の学部のAO入試で活用する。一部を除いて合否判定において活用するとしており、指定スコアを要していれば、評価の際に考慮したり、加点したりする。このように一口に英語外部試験の活用といっても、大学により利用方法や対象となる試験が異なる点に注意したい。

◆個々の大学の入試変更点

次に個々の大学の状況について、旧帝大を中心とした難関大の入試変更を確認した後、地区別に主な変更点を見ていこう。なお、一般入試の変更点は47ページからの「2016年度入試変更点一覧」に掲載しているので、あわせてご活用いただきたい。

①難関大の入試変更

東京大と京都大の特別選抜の実施は、一般入試にも影響が及びそうだ。東京大は後期日程が廃止される。そのため、東京大前期志望者の後期併願先が大きく変化することが予想される。【図表4】は、この夏に河合塾が実施した第2回全統マーク模試の東大前期志望者の後期志望校を見たものである。一

橋大、北海道大、東北大、大阪大、九州大などを併願志望校としている者が大きく増加している。例年、東京大の後期志願者数は約3千人であった。前期合格者が抜けていくことになるものの、前述の大学の後期日程では高成績層の増加が予想される。

京都大では特色入試の導入にあたり、前期の募集人員が各学部とも減員されている点に注意したい。特色入試として新たに実施される法学部の後期日程は注目度が高く、人気を集めそうだ。すでに模試では前期で京都大文系学部志望者が併願を考えている様子が見え始めた。このほか、経済学部論文型の廃止、農学部の複数志望制の拡大（全学科の志望が可能となる）、医学科の面接評価方法の変更（点数評価の廃止）、人間健康科学科検査技術科学専攻の2次重視の配点比率への変更など、京都大では多数の変更点がある。

東北大、東京工業大では募集人員の変更を予定している。東北大は、経済、工、医、薬学部の4学部でAO入試を拡大し、一般入試の募集人員を減員する。

東京工業大は、後期日程を唯一実施する第7類が、後期日程の募集人員を15名増の35名とする。この募集人員増に加え、2次試験で課す総合問題の試験内容について、英語、理科2科目（物化または化生）の準備が必要であったのが、「化学を中心とした設問とする」と記載が変更されている。受験生からすれば負担軽減となることから人気を集めることが予想される。

②センター試験理科の科目設定の見直し

新課程への移行に伴い大きく変更されたセンター試験の理科の科目編成であるが、早くも一部の大学で科目設定の見直しが行われている。

琉球大（農）は、2015年度入試では全国で唯一「理科①2科目+理科②1科目必須」という科目設定であった。一般的な国立大理系学部志望者が受験するパターン（理科②2科目）では科目不足となるため出願ができなかったことから、2015年度入試では志願者数が約3割減少した。2016年度入試では、これを改め他大学と同様の理科②2科目の設定へと変更する。

福井大（医-看護）では、理科①を未受験の場合、理科②2科目が必須であったが、2016年度入試では「理科①2科目または理科②1科目」に変更する。看護系では理科①の利用可否が大学により異なることから、看護系志望者の理科の受験パターンが分かれている。理科②受験者も多くいることから、歓迎される科目設定の変更といえそうだ。

一方、東京芸術大（美術-建築-前）、山口県立大（看護栄養-栄養-後）では理科①の選択が不可となるので志望者には注意させたい。

③北海道・東北地区

北海道教育大（札幌、旭川（実技系除く）、釧路-前）：2次試験 小→学科試験（一部は面・実）

弘前大（農学生命科学-生物-前）：2次試験 数学減
（農学生命科学-分子生命科学-前）：2次試験 理科2→1

秋田大（教育文化-学校-英語教育）：後期日程実施

山形大（地域教育文化-児童教育-前）：2次試験 英語増

④関東・甲信越地区

茨城大（人文-社会科学-前、農-前）：2次試験 英語増

筑波大（人文・文化-日本語・日本文化-前）：センター試験7科目化

埼玉大（教養-後、経済-前（国際P）・後）：2次試験 小論文を課す

千葉大（教育-小学校-前）：選修別募集→教科系・実技系の2系で募集

（教育-中学校-前）：2次試験 英語増

（教育-特別支援、幼稚園-前）：2次試験 小→英+数国から1

電気通信大（情報理工-前）：2次試験 理科1→2（物化必須）

東京外国語大（国際社会-アフリカ）：後期日程実施

東京農工大（工-前、農-前）：2次試験 理科増

新潟大（教育-学校-家庭）：後期日程廃止

都留文科大学（文-初等教育-中）：5科目型の方式を新設

信州大（医-医-前）：2次試験 理科1→2、小論文減

⑤東海・北陸地区

富山大（理-化学・生物・地球科学-後）：2次試験 理科増

静岡文化芸術大（文化政策-国際文化、芸術文化-前）：2次試験 教科数増

⑥近畿地区

奈良教育大（教育-音楽（中）・美術（中）・家庭（初・中）・技術（中））：後期日程実施

奈良県立医科大（医-看護地域枠）：後期→前期日程

⑦中国・四国地区

岡山大（環境理工-環境管理理工-前）：2次試験 教科数増
（医-放射線技術・検査技術-前）：2次試験 英語増

県立広島大（生命環境-前）：2次試験 英語減

愛媛大（医-医-前）：2段階選抜の倍率変更（8→6倍）

⑧九州地区

福岡教育大（教育）：初等教育を課程一括募集に変更、中等-音楽・美術・技術の後期日程実施、中等-前の多くで小論文増など入試変更多数

佐賀大（理工-前）：2次試験 英語増

長崎大（教育-前）：2次試験 新たに学科試験を課す、英語増など

（工-前）：2次試験英語増

熊本大（教育-中学-技術）：後期日程廃止

鹿児島大（教育-学校-英語）：後期日程廃止

（理、工、農、水産-前）：2次試験 英語増

◆学部・学科の新增設・改組

最後に新增設や改組・再編の動きについてまとめておく。

来春は国立大で学部の改組・再編の動きが例年になく活発だ。「国立大学改革プラン（2013.11文部科学省）」などを踏まえた一層の改革が迫られていることに加え、第3期中期目標・中期計画（2016～21年度）の策定時期が重なったためだ。特に教員養成系および人文社会科学系学部については、かねてより改革の必要性が唱えられてきた。今年の6月に文部科学大臣名で各大学に送付された通知においても、両分野については組織の改廃を含めた積極的な取り組みを改めて求めている。こうした状況を背景に、①教育学部総合科学課程の廃止、②地域創生・グローバル系学部の設置、③理系学部の定員増と学科再編、といった動きが目立つ。

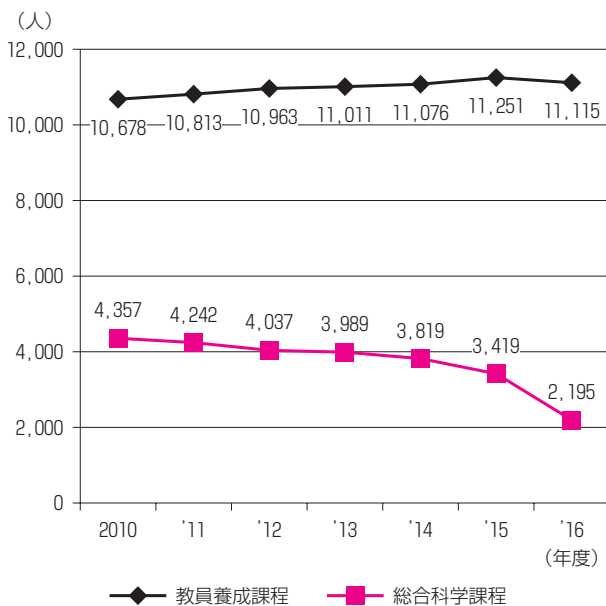
①教育学部総合科学課程の廃止

弘前大、岩手大、宇都宮大*、千葉大、福井大、山梨大、信州大、静岡大、三重大*、和歌山大、愛媛大*、福岡教育大*、佐賀大*、大分大*、宮崎大の15大学で総合科学課程を廃止する。このうち、*を付した大学では教員養成課程の募集人員を増員するが、多くは新設を含む他学部へ定員を振り替えており、教育学部の定員は縮小傾向にある。【図表5】は教育学部の入学定員を教員養成課程と総合科学課程に分けて推移をまとめたもの。2016年度は両課程とも減少しており、特に総合科学課程は約4割減少した。なお、福井大（教育地域科学）、山梨大（教育人間科学）、佐賀大（文化教育）、大分大（教育福祉科学）、宮崎大（教育文化）は、学部再編に伴い学部名称を「教育学部」とする。

②地域創生・グローバル系学部の設置

①の教育学部に加え、人文社会科学系学部でも入学定員や学科の見直し・再編が多数予定されている。また、これに伴う学部の新設も多く、なかでも目立つのが「地域」「国際」

【図表5】国公立大教育学部入学定員の推移
（教員養成課程vs総合科学課程）



※河合塾調べ

といった名称を付すものである。

例えば、宇都宮大では、教育学部総合人間形成課程および工学部建設学科を募集停止し、新たに地域デザイン科学部を設置する。建築技術をベースに居住空間や社会基盤のデザインを学ぶ建築系の学科のほか、地域社会を構成する社会集団や制度などをデザインできる人材を育成するコミュニティデザイン学科を設置し、文理融合の学科構成とする。

このほか、千葉大（国際教養）、福井大（国際地域）、佐賀大（芸術地域デザイン）、宮崎大（地域資源創成）などが新たに設置される。

③理系学部の定員増と学科再編

国立大の教育、人文社会科学系の組織の見直しにおいては、「社会的要請の高い分野への転換」を方向性として示している。結果として理系学部定員を増やすとともに、あわせて理系学部の学部・学科の再編を行う大学も多い。岩手大、徳島大が工学部を理工学部へ改組する。また、徳島大では新たに農学系の生物資源産業学部（入学定員100名）を設置する。このほか、弘前大（理工*、農学生命科学*）、岩手大（農*）、福井大（工）、信州大（工*、繊維）、静岡大（理*、農*、情報*）、愛媛大（農）などでは学科の再編や新設を行う。このうち*を付した学部では、学部全体の募集人員増を伴っている。

また、国立大学改革プランや「理工系人材育成戦略（2015.3文部科学省）」などにおいて、理工系分野にはイノベーションの創出に向けて、高い技術力、発想力などの複合的な力を備えた人材の育成を求めている。その際に大学院を中心とした機能強化が掲げられており、こうした国の戦略が意識された改組も見られた。

名古屋工業大は、既存の7学科を5学科に再編するとともに、新たに学部4年間と大学院博士前期課程2年間とを合わせた6年一貫教育を行う創造工学教育課程を新設する。創造工学教育課程では、学部1年後期から3年前半まで、他分野の研究室を2ヶ月単位で体験（研究室ローテーション）するなど、工学全体を俯瞰する幅広い視点、多様な価値観の養成をめざす。

東京工業大は、学部と大学院が一体となって教育を行う「学院」を創設し、現行の3学部と大学院6研究科を6学院・19系に再編する。入学時に大学院までの出口を見通すことができるよう教育カリキュラムを変更する。場合によっては、学部を3.5年で修了して修士課程に進むなど早期卒業も可能とする。なお、募集は従来通り類別に実施する。

私立大学編

◆学部・学科の新設 国際・グローバル系や医療系が中心

来年度も数多くの学部・学科の新設が予定されている。

設置が目立つ分野の1つが国際・グローバル系である。**桜美林大**(グローバル・コミュニケーション:入学定員250名)、**学習院大**(国際社会科学:同200名)、**愛知淑徳大**(グローバル・コミュニケーション:同60名)、**近畿大**(国際:同500名)などで学部が新設される。前述の4大学では、いずれも期間に差があるものの海外留学または海外研修を必修としている。**桜美林大**は半年間の海外留学を必修とし、英語・中国語・日本語・グローバル教養の4つの履修モデルを持つのが特徴的だ。**学習院大**は52年ぶりの学部の新設となる。最低4週間の海外研修を卒業要件の一つとしている。**愛知淑徳大**は、学部専門教育科目がすべて英語で行われる。学生の習熟度に合わせた1クラス15名の少人数教育を行うとしている。**近畿大**は、全学生が1年次後期から1年間留学する。

また、医療系分野の新設が目白押しである。なかでも**東北医科薬科大**(東北薬科大より名称変更予定)は医学部(入学定員100名)を設置する。医学部の新設は琉球大以来37年ぶりとなる。東日本大震災の被害を踏まえて、東北の復興の一翼を担う人材育成を行い、地域医療と災害医療に力を入れる。

ここ数年、新設ラッシュが続く看護系は、来春も**八戸学院大**(入学定員80名)、**国際医療福祉大**(同100名)、**東京医療学院大**(同80名)、**健康科学大**(同80名)、**修文大**(同100名)、**姫路獨協大**(同80名)の6大学で設置される。看護以外にも保健医療関係の学部・学科が、**国際医療福祉大**など9大学に新設される。

このほか、**日本大**は危機管理学部(入学定員300名)とスポーツ科学部(同300名)を新設する。危機管理学部は時代が必要とする危機管理のエキスパートの養成をめざす。スポーツ科学部は競技スポーツを実践するアスリートとそれを支える指

導者などスポーツに関連する幅広い分野で活躍できる人材養成を行う。募集は学科一括で行い、入学後2年次にアスリートコースとスポーツサポートコースの2コースに分かれる。**立命館大**は文学部の心理学域を学部昇格させる形で総合心理学部(同280名)を今春開設した大阪いばらきキャンパスに新設する。入学後は2年次より「認知・行動」「発達・支援」「社会・共生」の3コースに分かれて学ぶ。

学部・学科の新設とは異なるが、**成美大**(京都府福知山市)と**山口東京理科大**(山口県山陽小野田市)が来春より公立大学法人への移行を予定している。公立大学化する大学は、従前より人気を集める傾向があるので、志望動向に注意が必要だ。なお、来春は私立大としての入試を実施するため、他の国公立大との併願が可能である。

◆キャンパスの移転・新規設置

近年相次ぐキャンパス移転だが、2016年度も移転の計画が一部の大学から公表されている【図表6】。キャンパスの移転は、郊外から都心部への移転、4年間通して同じキャンパスに就学するよう再配置、という方向性が主流になっている。いずれも志願者の増加に結び付くことが多く、その注目度は高い。

首都圏では、**杏林大**(外国語、総合政策、保健)が八王子キャンパスから井の頭キャンパス(東京都三鷹市)へ、**東京理科大**(経営)が久喜キャンパス(埼玉県久喜市)から神楽坂キャンパス(東京都新宿区)へ移転する。いずれも郊外から都心部への移転であり、志望動向にも影響が及びそうだ。**大妻女子大**は、今春の文学部・家政学部に続き比較文化学部を千代田キャンパスへ集約する。これまで1・2年次は多摩キャンパスに就学していたが、1～4年次通して千代田キャンパスに就学することになる。4年間通じて同じキャンパスで過ごせるようになることは受験生にとっては好印象と映るだろう。

【図表6】2016年度 私立大の主なキャンパス移転・設置予定

大学	学部	学科	2015年度	2016年度計画
大妻女子	比較文化	比較文化	1・2年次:多摩キャンパス(東京都多摩市) 3・4年次:千代田キャンパス(東京都千代田区)	1～4年次:千代田キャンパス
杏林	外国語、総合政策、保健	全学科(看護・看護学を除く)	八王子キャンパス(東京都八王子市)	井の頭キャンパス(東京都三鷹市)
東京成徳	応用心理	臨床心理	八千代キャンパス(千葉県八千代市)	十条台キャンパス(東京都北区)
東京理科	経営	経営	久喜キャンパス(埼玉県久喜市)	神楽坂キャンパス(東京都新宿区)
	工	情報工	神楽坂キャンパス(東京都新宿区)	葛飾キャンパス(東京都葛飾区)
東洋学園	人間科学		流山キャンパス(千葉県流山市)	本郷キャンパス(東京都文京区)
日本	スポーツ科学、危機管理		—	三軒茶屋キャンパス(東京都世田谷区)
関東学院	法		湘南・小田原キャンパス(神奈川県小田原市)	横浜・金沢八景キャンパス(神奈川県横浜市)
新潟薬科	応用生命科学	生命産業創造	1年次:新津キャンパス 2～4年次:新津駅東口キャンパス	1～4年次:新津駅東口キャンパス
名城	外国語		—	ナゴヤドーム前キャンパス(愛知県名古屋)

※河合塾調べ

日本大は東京都世田谷区に三軒茶屋キャンパス、名城大は名古屋市東区にナゴヤドーム前キャンパスを新たに開設する。新キャンパスにはいずれも新学部を設置する予定となっている。

◆英語外部試験活用の拡大

国公立大でも触れた英語外部試験の活用の拡大は、むしろ私立大の方が先行している感がある。2015年度入試では一般入試に取り入れる動きが活発化したが、2016年度入試も主要大を中心にその動きが継続している。

【図表7】は、2016年度入試において一般入試で英語外部試験を新たに活用する主な大学の一覧である。

英語外部試験の活用方法は大学によりさまざまであるが、私立大の場合、アラカルトの1方式として一定のスコア等を有した者のみを対象とした方式を導入するケースが目立つ。獨協大のA方式外部検定試験活用型、青山学院大の個別日程C方式（文-英米文）、個別日程B方式（総合文化政策、地球社会共生）、東京理科大のグローバル方式、法政大の英語外部試験利用入試、立教大のグローバル方式、中京大の前期A方式英語基準型、関西学院大の英語検定試験活用型などがそれに該当する。

一方、既存の入試方式等において、英語外部試験で指定のスコア以上であれば、個別試験の英語を免除（または満点扱い）したり、加点したりするなど合否判定に利用するケースもある。南山大は全学統一入試、立命館大は一部の学部を除くセンター利用方式において、指定スコア以上であれば英語（南山大は個別試験、立命館大はセンター試験の英語）の成績を満点として扱う。広島修道大は一般前期C日程において、英語外部試験や他の資格・検定試験を含めて、指定のスコア等を有していれば個別試験の成績に5または10点加点する。

なお、指定する英語外部試験やそのスコアは大学により異

なる点も注意したい。例えば、実施2年目を迎えるTEAPには4技能（Reading、Listening、Writing、Speaking）の成績がある。青山学院大は、前述の文学部（英米文）ではこれら4技能全てのスコアを利用するが、総合文化政策学部と地球社会共生学部では2技能（Reading、Listening）のスコアのみを利用する。また、南山大では、4技能を利用するが、1技能でも基準スコアを満たさない場合は、「総スコア」が基準を満たしていても対象とならない、としている。このように大学、学部によって利用方法が異なるので注意が必要だ。

急速な広がりを見せる英語外部試験を活用した入試への対応は、各高校においても手探りの部分が多いと思われる。大学の活用方法も上記の通り千差万別で、その把握に苦労する面も多いだろう。しかし、有資格者にとっては出願の選択肢が広がるなど有利な面もあり、志望校での利用があれば検討させたい。本誌ではp482に、一般入試での利用大学および対象外部試験・必要スコア等をまとめた一覧を掲載したのでご活用いただきたい。

◆個々の大学の主な入試変更点

ここからは、そのほかの入試変更について見ていこう。科目変更の詳細についてはp47「2016年度 入試変更点一覧」をあわせて参照されたい。

①早稲田大センター利用方式の変更

早稲田大は文学部と文化構想学部で、従来のセンター併用方式（センター試験1教科+個別試験2教科）に加えて、センター試験（5教科6科目）の成績のみで判定する方式を新規に実施する。募集人員は従来のセンター併用方式の半数（文：25名、文化構想：35名）を割り当てる。教科数は多いが、出願するだけで受験できるこの方式は高い人気を集めそうだ。8月に実施された第2回全統マーク模試においても併

【図表7】2016年度 英語外部試験を新たに利用する主な大学（一般方式、センター方式）

大学	学部(学科)	方式	利用方法			
			出願要件	合否に利用		
			英語独自試験免除	みなし満点	加点	左記以外
獨協	外国語(交流文化)、国際教養、法、経済	一般(A方式<外部検定試験活用型>)	○	○		
青山学院	文(英米文)	一般(個別学部日程C方式)	○			
	総合文化政策、地球社会共生	一般(個別学部日程B方式)	○			
東京理科	経営(ビジネスエコノミクス)	一般(グローバル方式)	○			
東洋	経済(経済)	センター(前期3科目<外部試験利用>)	○			
	国際地域(地域-国際地域、国際観光)	センター(前期3教科ベスト2)		○		
法政	グローバル教養、現代福祉、生命科学、スポーツ健康、人間環境、情報科学	一般(英語外部試験利用入試)	○			
武蔵野	全学部	一般(グローバル方式)		○		
立教	全学部	一般(グローバル方式)	○			
中京	全学部(国際英語を除く)	一般(前期A方式<英語基準型>)	○	○		
南山	全学部	一般(全学統一入試)		○		
立命館	国際関係	一般(IR方式)	○			○(注)
	全学部(法、理工を除く)	センター(7科目型、5教科型、3教科型、後期型)		○		
関西学院	全学部	センター(1月<英語検定試験活用型>)	○			
広島修道	全学部	一般(前期C日程)			○	

(注)スコアに応じて得点に換算し、合否判定に利用する
※河合塾調べ

用方式よりも志望者数が多くなっている（文：センターのみ930人、センター併用524人、文化構想：センターのみ465人、センター併用345人）。また、商学部のセンター方式では科目数減（6→5科目）を予定している。こちらも志願者増加につながる可能性がある。

②医学科の入試変更

近年、医学科でも入試の複線化や地方試験会場の実施が進んでいるが、来春も一部の大学で予定されている。

東海大では一般枠でセンター利用方式を導入する。募集人員は10名と少数ではあるが、高い人気を集めそうだ。**日本大**では、他学部と同一日程で実施するN方式（募集人員3名）を新たに実施する。

新たに試験会場を増設するのが、**岩手医科大**、**兵庫医科大**で、いずれも名古屋に試験会場を設置する。

このほか、**帝京大**は一般方式、センター利用方式ともに英語が選択から必須になる。また、**東京女子医科大**では小論文増となる。**藤田保健衛生大**は後期に実施していた地域枠を前期に変更し、地域枠と後期の理科の科目数を1科目から2科目に増やす。**近畿大**のセンター利用方式（前期C・中期C）では、新たに個別試験として小論文と面接を課すなど、いずれも科目負担の増加が目立つ。

③インターネット出願の拡大

近年、急速に拡大したインターネットを利用した出願は、来春も導入する大学が後をたたない。来年度は**大妻女子大**、**学習院大**、**国際基督教大**、**東京理科大**、**明治大**、**南山大**などが新規導入予定である。

④北海道・東北地区

道都大（全学部）：方式変更

センター方式 A日程、B日程、C日程→A日程、B日程、C日程、D日程

一般方式 A日程、B日程→A日程、B日程、C日程

北海学園大（人文2部）：センター方式 新規実施

岩手医科大（歯、薬）：一般方式中期 廃止

尚絅学院大（総合人間科学－表現文化、現代社会、環境構想）：方式変更

センター方式 前期、後期→A日程、B日程、C日程

宮城学院女子大（全学部（学芸－音楽を除く））：方式変更

一般方式 A日程（3教科）→A日程前期（3教科）、A日程後期（2教科）

⑤関東・甲信越（東京除く）地区

獨協大（全学部）：センター方式中期 新規実施

フェリス学院大（文、国際交流）：方式変更

一般方式 A日程（2月上旬）、B日程（3月上旬）
→A日程（2月上旬）、B日程（2月中旬）、3月期（3月上旬）

山梨学院大（国際リベラルアーツ）：センター方式 新規実施

⑥東京地区

青山学院大（地球社会共生）：センター方式 新規実施

亜細亜大（全学部）：方式変更

A方式、B方式（センター方式）、C方式（全学統一試験2教科型）、T方式（全学統一試験後期）

→センター方式、一般方式（学科別）、全学統一入試前期（2教科型、センター併用）、全学統一入試中期（2教科型、センター併用）、全学統一入試後期

北里大（獣医－生物環境科学）：センター方式後期 新規実施

（獣医－獣医）：一般方式後期 新規実施

共立女子大（看護）：全学統一入試 新規実施

（国際）：センター併用 新規実施

國學院大（全学部）：センターV方式Ⅱ期 新規実施

順天堂大（国際教養）：センター方式 新規実施

上智大（全学部（国際教養除く））：TEAP利用型 基準スコアの変更

成蹊大（文）：センターP方式（国公立併願アシスト入試） 新規実施

（経済）：センターM方式（多面評価型入試） 新規実施

中央大（法）：センター単独前期3教科型 新規実施

（総合政策－政策科学）：プロフェッショナルコース 募集停止

日本大（歯）：センターC方式第2期 新規実施

明治大（政治経済－地域行政）：センター方式後期 廃止

⑦東海・北陸地区

金城大（看護）：センター方式 新規実施

福井工業大（スポーツ健康科学）：センター方式 新規実施

南山大（外国語、人文）：全学統一入試（個別学力試験型） 新規実施

⑧近畿・中国・四国・九州地区

同志社女子大（看護）：センター方式 新規実施

立命館大（法）：特修としての募集がなくなる（2回生進級時に選択）

龍谷大（農）：センター方式 新規実施

広島国際大（医療福祉）：専攻別→学科一括募集

松山大（経済）：センター後期B方式（数学型） 新規実施

福岡大（人文－ドイツ語）：センター方式Ⅱ期 新規実施

崇城大（薬）：一般方式後期 新規実施



ここまで、来春入試の変更点を中心にお伝えしてきた。本誌12月号では模試の動向を踏まえ来春入試の詳細な志望動向をご報告したい。